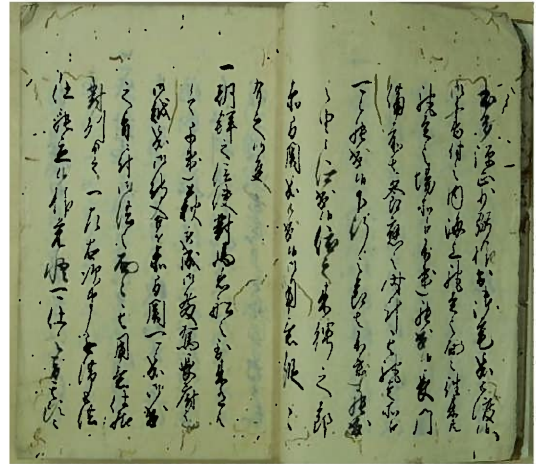
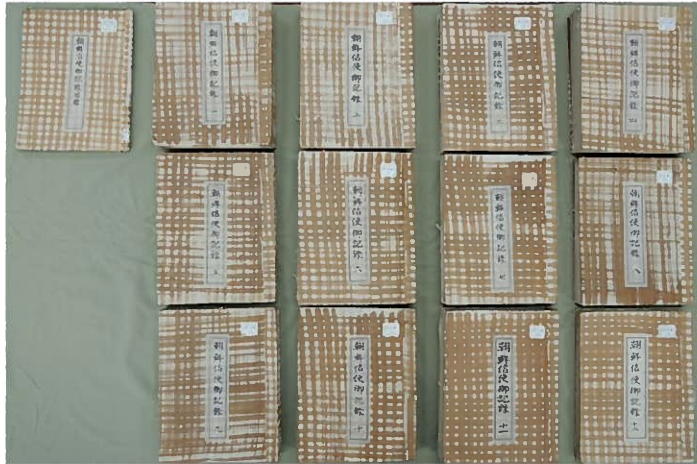


○ 日本側所蔵記録

II 旅程の記録

資料番号	J. II-1	資料名	朝鮮信使御記録(県庁伝来旧藩記録)
------	---------	-----	-------------------



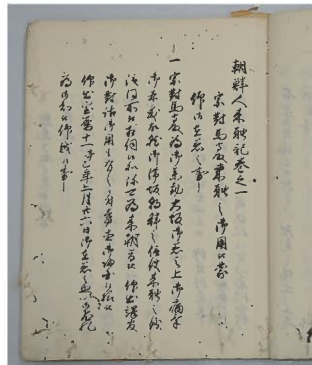
冊子装 紙本墨書 [縦×横] 23.7×17.0cmほか

1711年の朝鮮通信使が下関と上関に滞在した際、これを応接した長州藩の記録である。13冊から成っており、下関での記録が大半を占める。下関では藩内4,529名の侍と民衆、803艘の船舶が動員され、朝鮮通信使の安全を確保し懇切丁寧にもてなしたことが記されている。また、船着場や客館などの図面も付されている。

朝鮮通信使は江戸までの旅程において、日本の各地に滞在したが、この時の使行では下関での応接が最も優れていたと報告している。

朝鮮通信使を応接した大名の代表的な記録である。

資料番号	J. II-2	資料名	福岡藩朝鮮通信使記録(黒田家文書)
------	---------	-----	-------------------



冊子装 紙本墨書 [縦×横] 27.2×19.8cmほか

福岡藩朝鮮通信使記録のうち、次の資料が登載対象である。

1. 「朝鮮人来聘記」 11冊
2. 「朝鮮人帰国記」 4冊

ともに、1763～1764年の朝鮮通信使を筑前相ノ島において応接した福岡藩の記録である。来聘記は往路、帰国記は復路の記録となる。

この時、天候不順のため副使船が着岸に失敗して大破して航行不能となっており、その事後処理に通信使や福岡藩が苦勞している。

朝鮮通信使は長い旅程のなかで幾多の苦難に遭遇しているが、これはその代表的な例である。